

## 第9回早石修記念賞

公益財団法人 小野医学研究財団（理事長：川瀬 和一十）は、2025 年 11 月 26 日（水）に開催されました理事会において、青木 淳賢 博士に「第9回早石修記念賞」を贈呈することを決定いたしました。受賞者には、正賞（楯）、副賞 500 万円が贈られます。

贈呈式および記念講演会は、2026 年 6 月 13 日（土）午後 5 時 00 分より、千里ライフサイエンスセンター（大阪）にて執り行われる予定です。

### 《受賞者》

#### 青木 淳賢（あおき じゅんけん）博士

東京大学大学院薬学系研究科  
衛生化学教室 教授



### 《受賞対象となった研究業績》

#### 「生理活性リゾリン脂質の産生・作用メカニズムの解明と医療応用」

青木博士は、生理活性脂質「リゾリン脂質」に着目し、その受容体および産生酵素の世界初の同定、ならびに生理・病態機能の解明を通じて、「リゾリン脂質メディエーター」という新たな研究分野の確立に大きく貢献した。LPA や LysoPS などのリゾリン脂質が情報伝達分子として働くことを明らかにし、LPA 受容体（LPA<sub>3</sub>/EDG7等）やLysoPS受容体、LPA産生酵素（オートタキシンATX、PA-PLA<sub>1</sub>α）、LysoPS産生酵素（PS-PLA<sub>1</sub>）を世界に先駆けて同定している。また、これらの分子のノックアウトマウスを用いた解析により、LPA-受容体経路が発生、血管形成、毛根形成、免疫制御など多様な生理・病態機能に関与することを解明された。さらに、LPA<sub>6</sub>受容体やATXの立体構造解析を通じて、リガンド結合様式を原子レベルで明らかにし、創薬や脂質受容体標的薬の開発に道を拓いた。独自開発した GPCR 活性化測定法「TGFα切断アッセイ」により LysoPS 受容体の同定に成功するとともに、この方法は Orphan GPCR のリガンド解明にも大きく貢献した。さらに、リゾリン脂質や産生酵素を疾患バイオマーカーとして応用し、ATX が肝線維化の診断マーカーとして実用化されるなど、基礎から臨床応用まで幅広い波及効果をもたらした。

これらの業績は生命科学・医学分野に大きく貢献するものであり、早石修記念賞受賞にふさわしいと考えられる。

## 《略歴》

昭和 62 年	東京大学薬学部卒業
平成 元 年	東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了（井上圭三教授）
平成 4 年	東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了（井上圭三教授）
平成 4～ 7 年	東京都臨床医学総合研究所研究員（野本明夫部長）
同 7～12 年	東京大学大学院薬学系研究科助手（井上圭三教授）
同 12～19 年	東京大学大学院薬学系研究科助教授（新井洋由教授）
同 17～20 年	JST さきがけ研究員
同 19～令和 2 年	東北大学大学院薬学研究科教授
令和 元～2 年	東北大学研究教授
令和 2 年～	東京大学大学院薬学系研究科教授
平成 26～30 年	AMED-CREST 研究開発代表者
平成 30～令和 4 年	AMED-LEAP 研究開発代表者